

平成31年第1回北海道議会定例会 一般質問 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 平成31年 2月25日
 質問者 公明党 吉井 透 議員
 答弁者 知事

質問要旨	答弁要旨
<p>一 本道経済の活性化について (二) 観光振興について (吉井議員)</p> <p>次に、観光振興についてであります。</p> <p>知事は、観光振興を重要政策の一つとして位置づけ、これまで国内外において観光プロモーションを積極的に展開し、特に、外国人観光客については、昨年度、知事就任時の10倍となる、年間279万人が本道を訪れたところであります。</p> <p>一方、本道を訪れる外国人観光客は、道央圏に集中しており、道内各地域をくまなく訪問しているとは言えない状況であります。こうした状況に対する認識と、今後の対応について、知事の所見を伺います。</p> <p>また、道内においては、観光施設や公共施設などにおける外国語表記の案内は十分ではなく、受け入れる側においても、様々な言語に十分に対応することは困難な状況にあるものと考えます。特に、滞在中に体調が悪くなった際に対応できる、医療機関やスタッフの存在について、不安を感じる外国人の方も多いものと考えます。</p> <p>さらに、最近では、中国ではキャッシュレス決済が猛烈なスピードで普及しており、こうした国を含め、海外からの観光客が本道において支払いの際に不便を感じないよう、道内における利便性を高めることは、さらなる観光客の誘致につながるものと考えます。外国人観光客の受入体制の現状についての認識と、その充実に向けてどのように対応するのか、併せて知事の所見を伺います。</p>	<p>(知事)</p> <p>観光振興に係る地域偏在の解消に向けた取組についてであります。外国人観光客の旺盛な観光需要を地域経済の活性化につなげていくためには、道央圏に集中しがちな観光客を道内各地域に誘導することが必要であるとともに、多言語対応や決済環境の充実など、多様化する外国人観光客のニーズを的確に把握し、受入体制の整備を図っていくことが重要と認識をいたします。</p> <p>このため、道といたしましては、二次交通の利便性向上などによる広域観光周遊ルートを活用した地域への誘客に取り組んでいるほか、多言語に対応できる人材の育成やキャッシュレス決済の普及・啓発、外国語表記の看板整備への支援などを進めているところであります。</p> <p>道といたしましては、こうした取組に加え、今後ともアイヌや縄文文化等の地域資源を活かした新たな観光メニューづくりへの支援など、質や満足度の高い観光地づくりを進め、「世界が憧れる観光地・北海道」の実現に向け取り組んでまいります。</p>